

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	M. K		
所属	環境情報学府	学年	M1
派遣先大学	University of Newcastle (UON)		
期間	2024/11/03~2024/11/13		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

脱炭素社会の実現に向けた技術として注目されるガスキャプチャーについて学んだ。研究段階だが、工場から排出される二酸化炭素を再利用する仕組みであり、二酸化炭素排出のない循環型社会の実現に貢献する。

大学内の設備の充実ぶりに驚いた。無料で利用できるコーヒーサービスや、教室内のスクリーンやスピーカーの自由な使用など、学びに集中できる環境が整っており、日本の大学との違いを実感した。研究室の規模も非常に大きく、最先端の設備を備えている点が印象的であった。

語学面では、ネイティブスピーカーの英語は訛りや速さの影響で理解が難しい。一方、英語を第二言語として話す留学生たちの英語は比較的理解しやすい。文法が間違っても問題なく会話が成り立つことを体感した。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

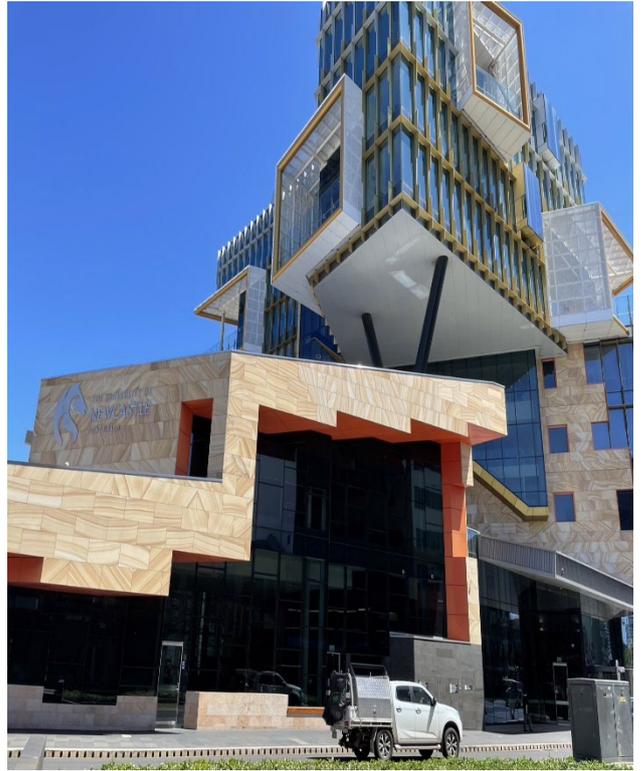
イギリス英語の表記に苦労した。一例として、エレベーターをリフトと表記するなど、日本とは異なる点が多かった。また、物価が日本よりもかなり高く、気軽に買い物をするのが難しいと感じた。

文化面では、自己主張が重要視される文化が印象的であった。バスを降りる際に後部ドアを開けるよう大声で伝えるなど、自分の要望をしっかりと伝えることが求められる。現地の人々は非常に親切で、困った際には積極的に声をかけて助けてくれる温かさを感じた。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

自分が何を達成したいか明確な目標を持つことが大切です。例えば、「現地で友達を作る」といった具体的な目標があると、自然とどのように過ごすか計画するようになります。このプログラムは、海外で活動する難しさ、他国の人々と協力し成果を挙げる達成感、多様性を受け入れる良い機会です。

個人的なアドバイスとして積極的に人に話しかけ、動くと思えるものが多いです。真面目に課題に取り組むだけでなく個性を生かすとよりよい経験になると思います。英語を話すことに不安を感じる方もいると思いますが、私たちは思っているより英語が話せます。単語さえ言えれば、最悪ジェスチャーだけで通じます。完璧な英語を話すことにこだわらず、積極的にコミュニケーションを取ることが大切です。ぜひ学びある貴重な経験にしてください。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	A. S.		
所属	環境情報学府 人工環境専攻	学年	修士 1 年
派遣先大学	ニューカッスル大学		
期間	11/3~11/13		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

私は、現地で丁度開催されていた国際学会にポスター発表で参加しました。自身の研究について英語で伝えるのは難しかったですが、相手の方も熱心にこちらの話を聞いてくださったので拙い英語でも伝える意志があれば大丈夫だと実感することができました。また、大学では CO₂ をキャプチャーする材料についてのレクチャーを受講しました。最先端技術についてお話を聞く機会は貴重なので、大変興味深かったです。現地での会話は全て英語なのでリスニングおよびスピーキング能力は自ずと向上しました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

非常に多国籍な国なので、独自の食文化はあまり発展しておらず、様々な国の飲食店が揃っているのが印象的でした。また、ワークライフバランスを重視する文化があり、17 時か 18 時にはお店が閉まっているのが当たり前で、夜に出歩いている人はほとんどいませんでした。国民性としては、遠慮がちな日本人とは対照的に、間違いを恐れず積極的に発言する能力が高いと感じました。私も見習って、積極的に発言しようと心掛けるようになりました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私自身初めての海外渡航だったのですが、オーストラリアはとても過ごしやすく、初めての海外渡航にぴったりでした。現地の学生さんはもちろん、近隣住民の方もとても親切で、フレンドリーなのできっと全部が楽しい思い出になると思います。ニューカッスルは自然が豊かで、動物と触れ合える場所が沢山あるので、色々調べて前もって計画を立てておくといいのかなと思います。応募を迷っている方の後押しになれば幸いです。ニューカッスルの旅が実りあるものになるよう祈っております。

